



# 「JET 参加者の震災経験～東日本大震災から5年～」を開催しました！

東日本大震災から5年が経過し、当時東北で任用されていた JET 参加者等によるパネルディスカッション及び震災で亡くなられた元 JET 参加者テイラー・アンダーソン氏のドキュメンタリー映画「夢を生きるテイラー・アンダーソン物語」を鑑賞するイベントを平成28年3月13日（日）にせんだいメディアテークで仙台市と共催で開催しました。



岡本理事長挨拶



奥山仙台市長挨拶

## パネリスト、コーディネーター(敬称略)

### ■コーディネーター

- ・板橋恵子 (FM 仙台 防災・減災プロデューサー)

### ■パネリスト

- ・アマンダ ワヤマ (元岩手県 JET 参加者)
- ・ケビン シェ (元福島県 JET 参加者)
- ・マーシャル イケダ (元宮城県 JET 参加者)
- ・熊谷 礼子 (仙台市教育センター)

## パネルディスカッション

会場は多くの人で溢れ、日本人だけでなく JET 参加者をはじめ多くの外国籍の方にも参加していただきました。

パネルディスカッションでは、元 JET 参加者と当時 ALT の担当をしていた熊谷さんがパネリストとして参加し、それぞれ当時の経験を語り、震災から学んだ今後の災害に備えることの重要さや、今後の課題等について議論しました。



パネルディスカッション

コーディネーターの板橋さんは震災当時に情報が錯綜している中、日本語の得意でない外国籍の方に向け、震災直後からラジオで英語、中国語、韓国語、やさしい日本語で震災状況の発信をし、仙台在住の外国籍の方の役に立ったことから、多言語での情報発信を今後も継続する重要性を語っていました。

元 JET 参加者の3名は日本人、外国人といった垣根を作らず、日頃から地域の方々との繋がりを持つておくことが、震災が起きた際に互いの助け合いに繋がると参加者へメッセージを伝えました。その中で現在京都在住のケビンさんは、今でも引き続き福島の復興に向けボランティア活動を行っています。そして、地域の魅力を知ってもらい、訪れてもらうことが復興へつなぐと、福島の観光 PR も行っています。

熊谷さんは、仙台に ALT が来日した際に防災に関する研修や連絡体制について教えていましたが、あの規模

の震災では機能しなかったことも多く、前もって近所の人々との関わりを持っておくことの重要性や、震災時の記憶を継承していくことが必要であると語りました。

質疑応答では現役の JET 参加者から、JET 参加者の一員としてどうやって復興に関わることができるかといった質問もあり、パネリストの方々が行っていたボランティア経験を聞き、自分たちも引き継いで行いたいと決意を新たにしている様子が見られました。

また、参加者アンケートでは、「5 年が過ぎ、忘れ去られてしまっていることが増えている中、震災の経験を思い出し、自分自身とは違う状況におかれた人の体験を聞くことで、今後復興に向けて何をすべきか考えることができた」といった声も聞くことができ、また今後も同様の開催を行ってほしいとの声もありました。

## 映画上映

冒頭で故テイラー・アンダーソン氏が任用されていた石巻市長の亀山様からのメッセージを石巻副市長笹野様にご代読いただきました。

また、テイラー氏の弟であり、現在奈良県の ALT として活躍しているジェフリー・アンダーソンさんからも「夢を生きるテイラー・アンダーソン物語」の映画紹介をしていただき、姉への想いを語っていただきました。

「夢を生きるテイラー・アンダーソン物語」は、震災当時石巻で任用されていたテイラー・アンダーソン氏のドキュメンタリー映画で、いかに彼女が日本を愛し、石巻で愛され、夢に向かって生きていたかがわかります。

また、もう 1 人陸前高田市で任用されて、惜しくも命を落としてしまったモンゴメリ・ディクソン氏も同様に生徒たちから愛されていた様子が伝わり、会場では参加者がすすり泣く様子も多く見られました。

## 最後に

このパネルディスカッションの映像は今後 JET プログラムのホームページに掲載する予定です。

当日参加できなかった多くの方にもこのパネルディスカッションをご覧いただき、現在任用されている JET 参加者や、外国籍の居住者の方々が今後の防災への備えに向けて学び、活かしていただくきっかけになれば幸いです。



ジェフリー・アンダーソンさんと笹野石巻副市長



会場の様子